

# DIGITAL PIANO

YDP-121

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・デジタルピアノYDP-121を  
お買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。  
YDP-121の機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、  
この「取扱説明書」をご活用ください。  
お読みになったあとは、いつでもご覧になれるところに大切に  
保管していただきますよう、お願い申し上げます。



# 安全上のご注意



ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	<b>注意</b> 感電の恐れあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

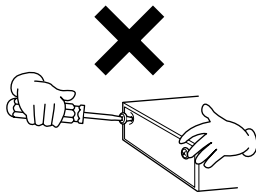
● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

\* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。  
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



⊘ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

⊘ 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。  
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

! 電源は必ず交流100Vを使用する。  
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

⊘ 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

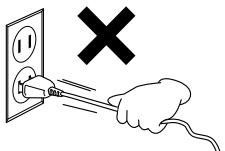
! 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。  
感電やショートのおそれがあります。

## 注意

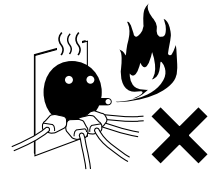
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。  
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

! 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



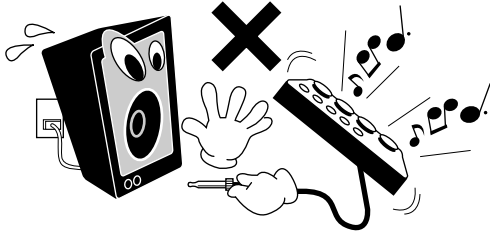
⊘ タコ足配線をしない。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



! 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電、ショート、発火などの原因になります。



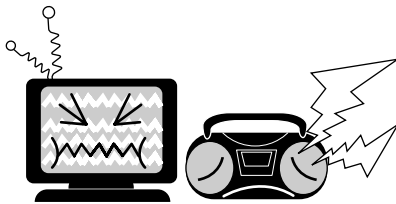
他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。



キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。壁から3cm以上離してください。



組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順通りに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしったりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

#### イスについて



イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

#### 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

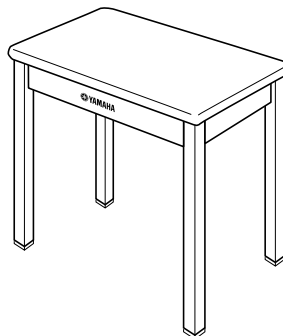
\* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

# 付属品(お確かめください)

## 保証書



## 専用イス



## 取扱説明書(本書)



## ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)

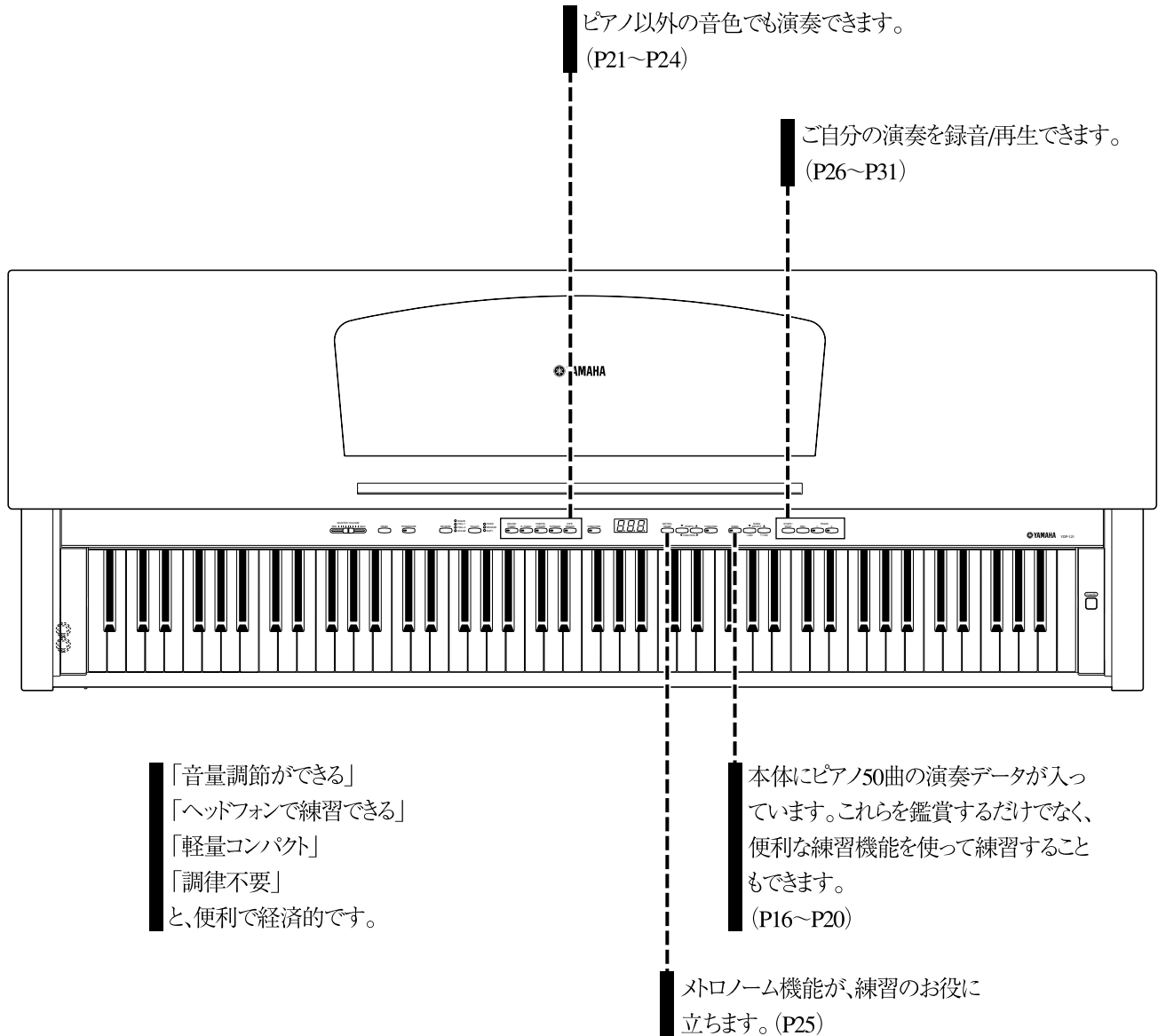


## ヘッドフォン



# YDP-121でこんなことができます

リアルなピアノ音色と、リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。



# 取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準 備** / 最初にお読みください。
- **本 編** / YDP-121の機能を詳しく説明しています。
- **付 録** / YDP-121をMDP1α(「伴奏くん」と組み合わせる楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

## 表記上の決まり

【 】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER マスターボリューム VOLUME】と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

⇨ の操作を行った結果、 の状態になることを示しています。  
(操作の結果を示します。)

➡ の操作を行ったあと、 の操作を示しています。  
(操作の手順を示します。)

この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

# 目次

## 準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	4
YDP-121でこんなことができます	5
取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます	6
ご使用前の準備	8

## 本編

各部の名前	12
操作の基本と共通機能	14
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	16
デモ曲を聞く	17
ピアノ50曲を聞く	18
ピアノ50曲の片手練習	19
ピアノ50曲の部分練習	20
音色を選んで弾く	21
音色を選ぶ	21
ペダルを使う	21
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】 【 <small>リバーブ</small> REVERB】	22
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	23
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSCOPE】	23
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	24
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	25
演奏の録音(記録)	26
録音の手順(1つのトラックへの録音)	26
録音し直す場合	27
続いて2つめのトラックへ録音する場合	28
録音(記録)されるデータの種類	28
初期値の変更	29
録音上の注意	29
録音した曲の再生	30
再生の基本手順	30
再生に関する便利な機能	30

ファンクション	32
ファンクションでの基本操作	33
各ファンクション項目の説明	34
・ F1. 音程の微調整	34
・ F2. 音律(調律法)の選択	34
・ F3. デュアルの諸設定	35
・ F4. 左ペダル機能の設定	36
・ F5. メトロノーム音量の設定	36
・ F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	36
・ F7. <small>オン/オフ</small> バックアップON/OFFの設定	36
・ 基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すには	37
他の機器と接続する端子	38

## 付録

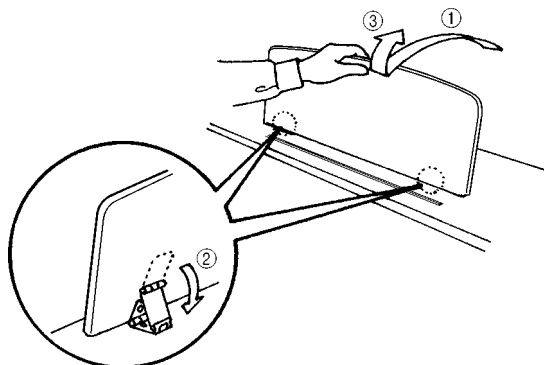
MDP10(「伴奏くん」)を使って ディスクソフトを楽しむ	40
音色のご紹介	41
基本設定一覧表	42
別売品のご紹介	43
仕様	43
YDP-121の組み立て方	44
故障かな?と思ったら	46
索引	47
保証とアフターサービス	巻末

# ご使用前の準備

## ■ 譜面立てについて


### 立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を、下向きに開きます。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



### 倒すとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

 譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。  
また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

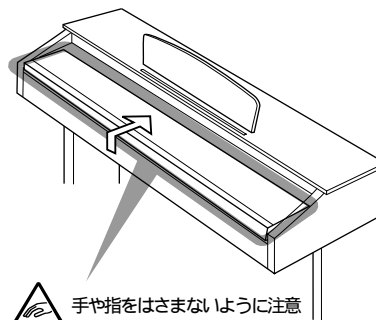
## ■ キーカバーについて


### 開けるとき



1. 少しだけ持ち上げます。  
持ち上げすぎないように、ご注意ください。
2. 奥へすべらせて開けます。

### 閉めるとき

1. 下へすべらせてます。
2. 手を添えたまま静かに降ろします。



 手や指をはさまないように注意

-  キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行い、途中で手を離さないでください。  
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
-  キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。







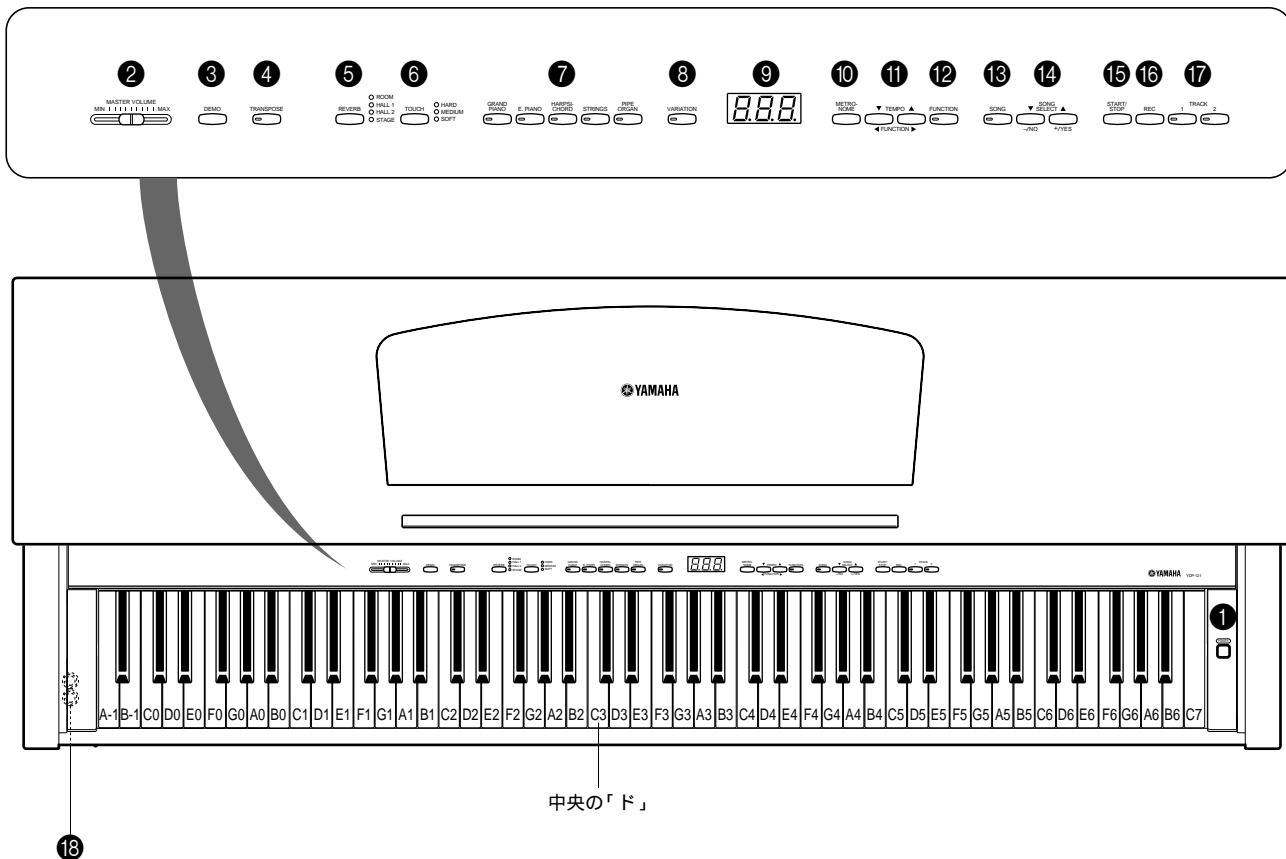
# 本編

YDP-121の機能を詳しく説明しています。

各部の名前	P12	ファンクション	P32
操作の基本と共通機能	P14	ファンクションでの基本操作	P33
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	P16	各ファンクション項目の説明	P34
デモ曲を聞く	P17	・ F1. 音程の微調整	34
ピアノ50曲を聞く	P18	・ F2. 音律(調律法)の選択	34
ピアノ50曲の片手練習	P19	・ F3. デュアルの諸設定	35
ピアノ50曲の部分練習	P20	・ F4. 左ペダル機能の設定	36
音色を選んで弾く	P21	・ F5. メトロノーム音量の設定	36
音色を選ぶ	P21	・ F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	36
ペダルを使う	P21	・ F7. バックアップON/OFFの設定	36
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】		・ 基本設定( =工場出荷時の設定)に戻すには	37
【 <small>リバーブ</small> REVERB】	P22	他の機器と接続する端子	P38
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	P23		
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSCOPE】	P23		
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)...	P24		
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	P25		
演奏の録音(記録)	P26		
録音の手順(1つのトラックへの録音)	P26		
録音し直す場合	P27		
続いて2つめのトラックへ			
録音する場合	P28		
録音(記録)されるデータの種類	P28		
初期値の変更	P29		
録音上の注意	P29		
録音した曲の再生	P30		
再生の基本手順	P30		
再生に関する便利な機能	P30		

# 各部の名前

## トップパネル

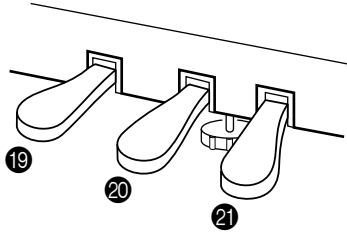


- ①【POWER】<sup>パワー</sup>…………… P9
- ②【MASTER VOLUME】<sup>マスター ボリューム</sup>…………… P9
- ③【DEMO】<sup>デモ</sup>…………… P16
- ④【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>…………… P23
- ⑤【REVERB】<sup>リバーブ</sup>…………… P22
- ⑥【TOUCH】<sup>タッチ</sup>…………… P23
- ⑦音色ボタン…………… P21
- ⑧【VARIATION】<sup>バリエーション</sup>…………… P22
- ⑨ディスプレイ…………… P14
- ⑩【METRONOME】<sup>メトロノーム</sup>…………… P25
- ⑪【ITEMPO】<sup>テンポ</sup>…………… P14, 33
- ⑫【FUNCTION】<sup>ファンクション</sup>…………… P14, 33

- ⑫【FUNCTION】<sup>ファンクション</sup>…………… P32 ~ 37
- ⑬【SONG】<sup>ソング</sup>…………… P16
- ⑭【SONG SELECT】<sup>ソング セレクト</sup>…………… P14, 33
- ⑮【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>…………… P17 ~ 20, 27, 30
- ⑯【REC】<sup>レコード</sup>…………… P26
- ⑰TRACK…………… P26, 30
- ⑱【PHONES】<sup>フォーンズ</sup>…………… P38

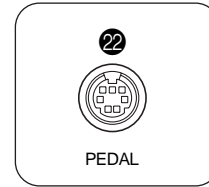
本編

## ペダル



- ①⑨ 左のペダル(ソフトペダル)…………… P21  
(スタート/ストップ機能)…………… P19、36
- ②⑩ まん中のペダル(ソステヌートペダル)…………… P21
- ②⑪ 右のペダル(ダンパーペダル)…………… P21

## ペダル端子



- ②② <sup>ペダル</sup>PEDAL端子…………… P38、45

# 操作の基本と共通機能

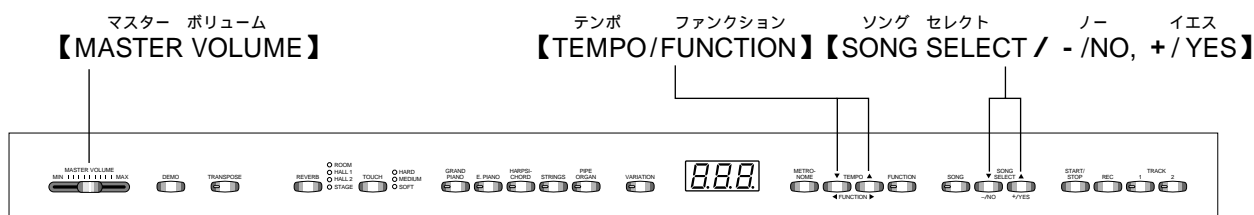
取扱説明書の「本編」をお読みいただく上で必要な「操作の基本と共通機能」を説明します。必ずお読みください。

## ■ 操作の基本

操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。  
操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。  
場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



## ■ いろいろな場面でよく使うボタン



### 【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

### 【TEMPO/FUNCTION】

この2つのボタンは、場面に応じて下記のように異なる働きをします。

#### ・ TEMPOの調節

外口ノームを使うときや、ピアノ曲、録音した曲の再生時のテンポを調節します。ボタンを押し続けると値が連続して変わります。【】と【】を同時に押すと、標準テンポ(録音した曲に設定されているテンポ、または120)に戻ります。

#### ・ FUNCTION項目の選択

ファンクションの項目を選びます(P33)。

### 【SONG SELECT / - /NO, + /YES】

#### ・ SONGの選択

ピアノ50曲の曲を選びます。ボタンを押し続けると曲番号が連続して変わります。

#### ・ - /NO, + /YES機能

各種の値を設定、選択したり、操作の実行(YES)や中止(NO)を行います。ボタンを押し続けると値が連続して変わる場合があります。そのとき、項目によって最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。【- /NO】と【+ /YES】を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻る場合があります。

## メモリーバックアップについて

基本設定(工場出荷時の設定)では、バックアップはすべてOFF(バックアップされない)になっています。バックアップON/OFFの設定は、ファンクションで設定内容のグループごとに任意に切り替えることができます(P36)。ただし、「メモリーに録音された演奏データ」及び「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

## YDP-121の機能の全体構成

大きく下記3つの機能があります。

演奏に関する機能(P21～P25)

録音/再生に関する機能(P26～P31)

ファンクションの各機能(P32～P37)

## ファンクションとは...

YDP-121をお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。特に設定をしなくても工場出荷時に基本的な設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。

また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P32～P37)

## メモリーとは...

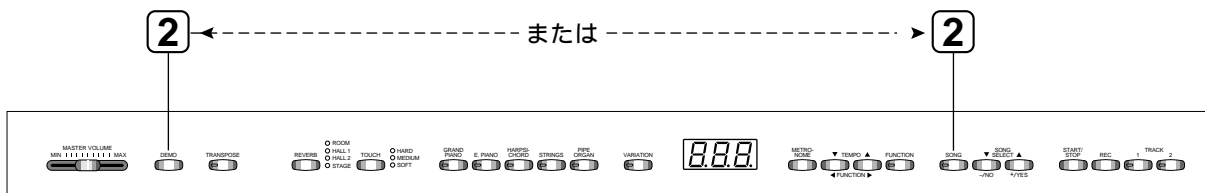
いろいろな設定や録音データが記憶される、YDP-121本体内部の記憶装置のことです。

## バックアップとは...

メモリーに記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておく、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておく、次回電源を入れたときは基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。基本設定一覧表がP42に掲載されています。

# デモ曲/ピアノ曲を楽しむ

YDP-121には、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ名曲50曲が入っています。聞いてみましょう。ピアノ名曲50曲では、右手または左手部分を再生OFFにしてご自分で練習したり、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



## 操作

### 1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【POWER】<sup>パワー</sup>を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節しますが、とりあえず【MASTER VOLUME】<sup>マスター ボリューム</sup>を中程まで上げておきます。

### 2 デモ曲/ピアノ曲モードに入る

#### デモ曲モード

パネル左ブロックの【DEMO】<sup>デモ</sup>を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

#### ピアノ曲モード

パネル右ブロックの【SONG】<sup>ソング</sup>を押します。

⇒ 【SONG】<sup>ソング</sup>のランプが点灯します。

このあと、デモ曲の聞き方と、ピアノ名曲50曲(以降「ピアノ50曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

録音モード(P26)のときと、曲の再生中(P30)は...  
デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

モードとは...

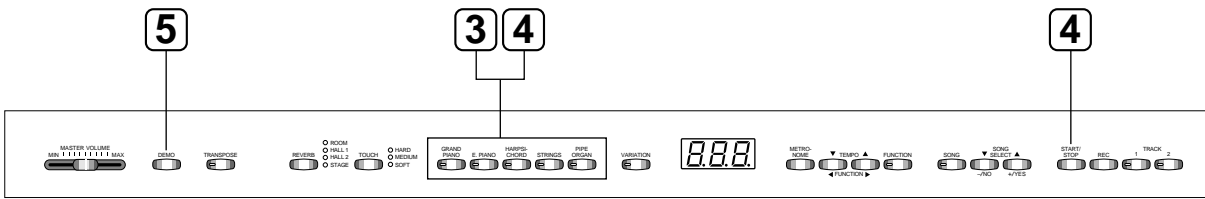
ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使える状態のことをファンクションモードと言います。また、「種類」とか「方式」という意味に使われる場合もあります。

ソング  
SONGとは...

YDP-121では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データです。



# ■ デモ曲を聞く



## P16の操作 1、2に続いて

### 3 選曲と再生スタート

音色ボタンごとにデモ曲が1曲(合計5曲)用意されています。  
 聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずに【START/STOP】を押すと、GRAND PIANOの曲が再生されます。)  
 ⇨ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

**音量の調節**  
 デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

### 4 再生ストップ

再生をストップする場合は、【START/STOP】または再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

### 5 デモ曲モードを抜ける

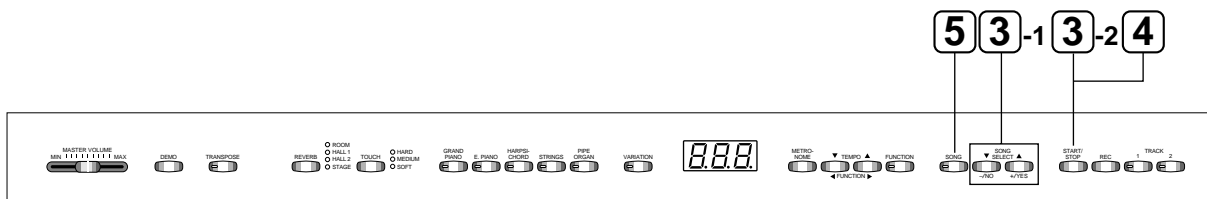
【DEMO】を押します。  
 ⇨ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」(P19)、「部分練習」(P20)はできません。

## デモ曲 曲名一覧表

音色	曲名	作曲者
GRAND PIANO(グランドピアノ)	幻想即興曲	F.F.Chopin
E.PIANO(エレクトリックピアノ)	オリジナル	-
HARPSICHORD(ハーpsiコード)	ガボット(フランス組曲3番より)	J.S.Bach
STRINGS(ストリングス)	アイネクライネナハトムジーク第3楽章	W.A.Mozart
PIPE ORGAN(パイプオルガン)	トリオソナタ第2番	J.S.Bach

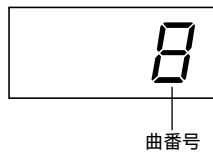
# ピアノ50曲を聞く



## P16の操作 1、2に続いて

### 3 選曲と再生スタート

3-1 【<sup>ソング セレクト</sup>】SONG SELECT【】を押して、聞くピアノ曲を選びます。



1 ~ 50: 聞く曲番号を指定します。

1曲だけ再生するモードです。

ランダム  
rnd: ピアノ50曲を順不同に連続再生するモードです。

オール  
ALL: ピアノ50曲を順番に連続再生するモードです。

3-2 【<sup>スタート/ストップ</sup>】START/STOP【】を押すと再生がスタートします。

#### 音量の調節

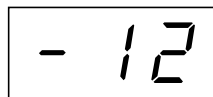
ピアノ曲を聞きながら【<sup>マスター ボリューム</sup>】MASTER VOLUME【】で音量を調節します。

#### テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが

【<sup>テンポ</sup>】TEMPO【】を押してテンポを変更できます。

【**X**】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



操作時、元のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50 ~ 50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)元のテンポのときは「」と表示されます。

### 4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、【<sup>スタート/ストップ</sup>】START/STOP【】を押します。

・ 続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

### 5 ピアノ曲モードを抜ける

【<sup>ソング</sup>】SONG【】を押します。

⇨ 【<sup>ソング</sup>】SONG【】のランプが消灯します。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手パートを再生オフしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

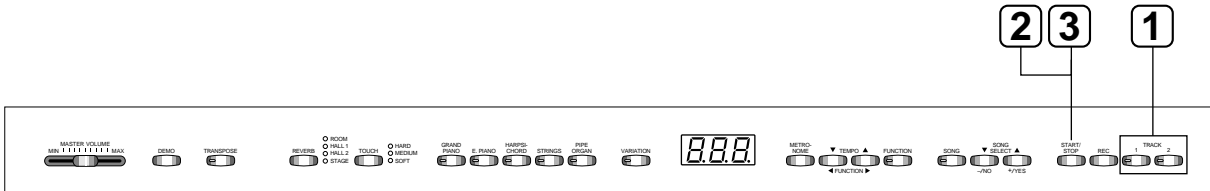
手弾き音用に【<sup>タッチ</sup>】TOUCH【】P23を切り替えることもできます。

再生に合わせて、鍵盤を弾くこともできます。

テンポのリセット(再設定)...  
新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

# ピアノ50曲の片手練習

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれを再生ON/OFFし、再生OFFしたパートをご自分で練習することができます。右手パートがトラック【1】に、左手パートがトラック【2】に入っています。(一部、連弾アレンジになっていて【1】と【2】が連弾のパート別になっている曲があります。)



## 操作

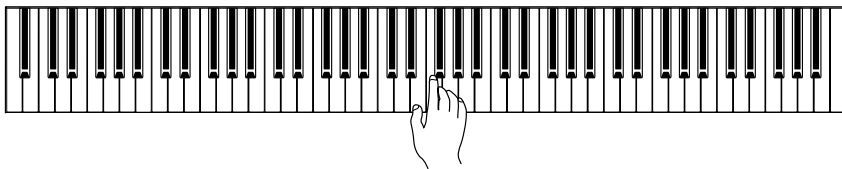
### 1 練習するパートの音を消す

選曲したあとトラック【1】【2】の再生OFFしたい方を押します。(選曲した時点ではトラック【1】【2】共ランプが点灯しています。)

- ⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。
- ・ それぞれのボタンは、押すごとに再生ON/OFFが切り替わります。

### 2 再生スタート/演奏

【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生OFFしたパートをご自身で演奏してください。



**弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)**  
鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

- ⇒ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「2」が現れます。



曲番号  
シンクロスタートのマーク

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

#### 左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション(P36)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

### 3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、【START/STOP】を押します。

オールランダムALLとrnd P18)のときはできません。

再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

再生OFFしたパートの音量調節...  
再生OFFしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション(P36)でできます。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

再生OFFのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すと...

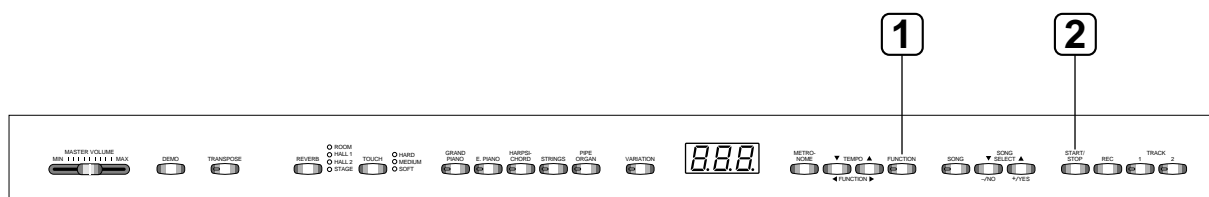
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

パート再生のリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

# ピアノ50曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」もいっしょにお使いいただけます。

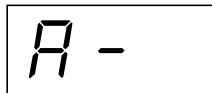


## 操作

### 1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

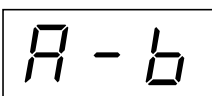
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに「A -」と表示されます。

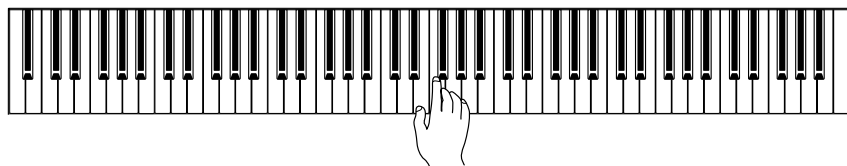


続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに「A - b」と表示されます。



繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



### 2 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときは【スタート/ストップSTART/STOP】を押します。(この場合、再度【スタート/ストップSTART/STOP】を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときはもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

オールランダムALLとmd P18)のときはできません。

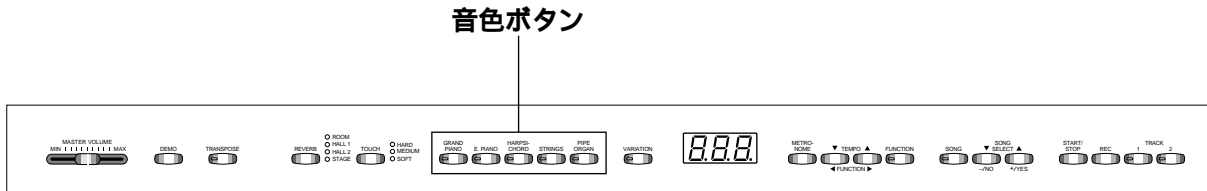
曲の先頭から繰り返しを始めたいときは...

再生をスタートする前に【ファンクションFUNCTION】を押して、「A -」を表示させます。

新しい曲を選ぶと...  
A点、B点は自動的に解除されます。

# 音色を選んで弾く

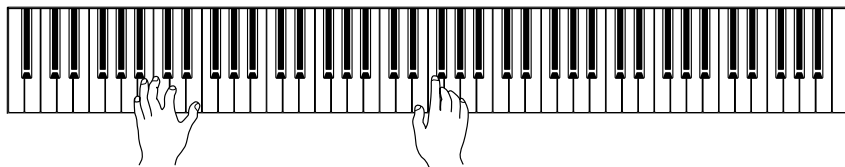
## 音色を選ぶ



### 操作

使いたい音色ボタンを押します。  
⇒ ランプが点灯します。

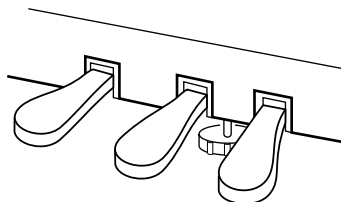
【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。



音色の特長を掴むには...  
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P17)

## ペダルを使う

3本のペダルの使い方を説明します。



### 右のペダル(ダンパーペダル)

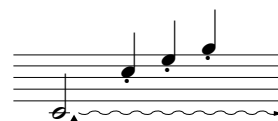
このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

### まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

### 左のペダル(ソフトペダル)

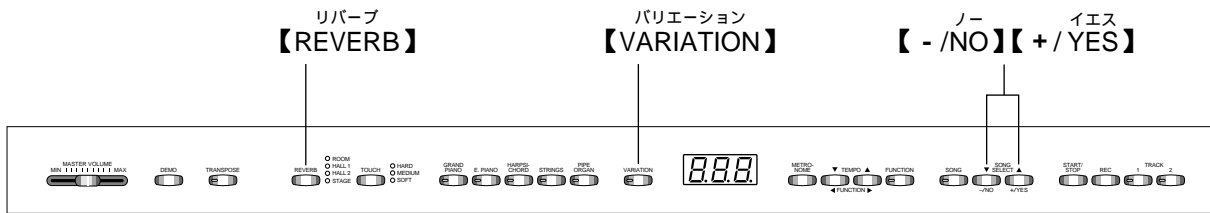
このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

オルガンやストリングスの音色では...  
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

左のペダルの機能切り替え...  
ファンクション(P36)で左のペダルをパネルの【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

# ■ 音に変化を付ける...

## バリエーション リバーブ 【VARIATION】/【REVERB】



### バリエーション 【VARIATION】

違った表情の音にします。

#### 操作

【VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。

☞ ランプが点灯したときがONです。

### リバーブ 【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ かかり具合 を変えることもできます。

OFF： リバーブはかかりません。

ROOM： 部屋の中にいるような響きになります。

HALL 1： 小さいコンサートホールにいるような響きになります。

HALL 2： 大きいコンサートホールにいるような響きになります。

STAGE： ステージにいるような響きになります。

#### 操作

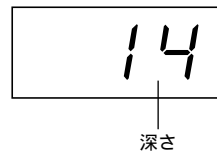
【REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。

☞ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

#### 深さ かかり具合 を変える

【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

【REVERB】を押したまま【-/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



基本設定...OFF

基本設定...  
音色ごとにリバーブの種類(OFFも含む)が設定されています。

リバーブの種類は【REVERB】を押して離れたときに切り替わります。

深さ0：効果なし～  
深さ20：深さ最大

基本設定...  
音色ごとに標準の深さが設定されています。

【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

タッチ

# 【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

**HARD** : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノニッショからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

**MEDIUM** : 標準的なタッチです。

**SOFT** : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそりやすいタッチです。

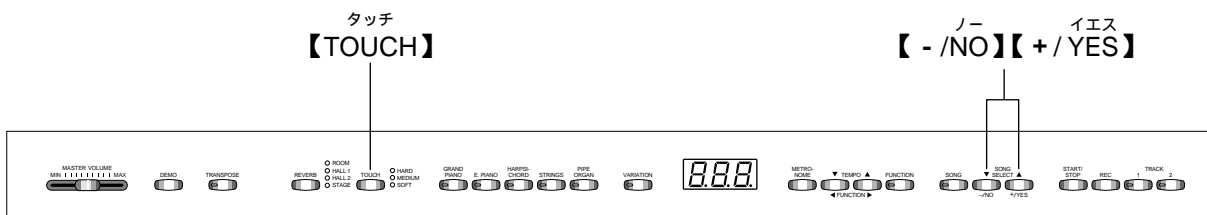
**FIXED** : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD = 「力のいる、骨の折れる」  
MEDIUM = 「中間の、中位の」  
SOFT = 「やさしい、楽な」  
FIXED = 「固定された」

基本設定...  
MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。

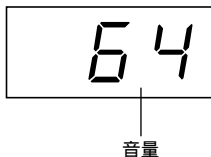


## 操作

【TOUCH】を押すごとに種類が切り替わります。  
⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

## FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、【TOUCH】を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。  
【TOUCH】を押したまま【 - /NO】または【 + / YES】を押すと、音量を示す値(1~127、基本設定 = 64)が変わります。



1 : 最小音量 ~  
127 : 最大音量

FIXEDの場合の音量は全音色に共通の設定となります。

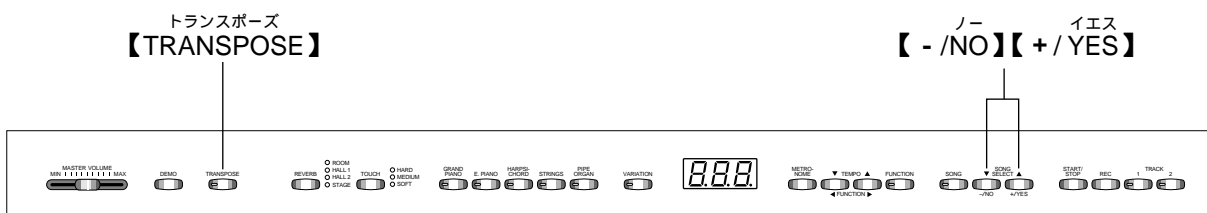
タッチの種類は【TOUCH】を押して離れたときに切り替わります。  
【TOUCH】を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、【TOUCH】を離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

トランスポーズ

# 【TRANSPOSE】

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

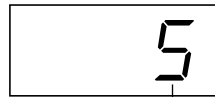
トランスポーズ: 移調する  
移調: 曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。



## 操作

トランスポーズ  
【TRANSPOSE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。

トランスポーズ  
【TRANSPOSE】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12 ~ 0 ~ 12、基本設定=0)が変わります。



トランスポーズ量

トランスポーズ  
【TRANSPOSE】のランプは、トランスポーズ  
【TRANSPOSE】を押している間点灯します。トランスポーズ量を  
ゼロ  
0以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。  
ゼロ  
0以外に設定したあとは、トランスポーズのON/OFFを切り替える  
オン/オフ  
ことができます。

## トランスポーズ量...

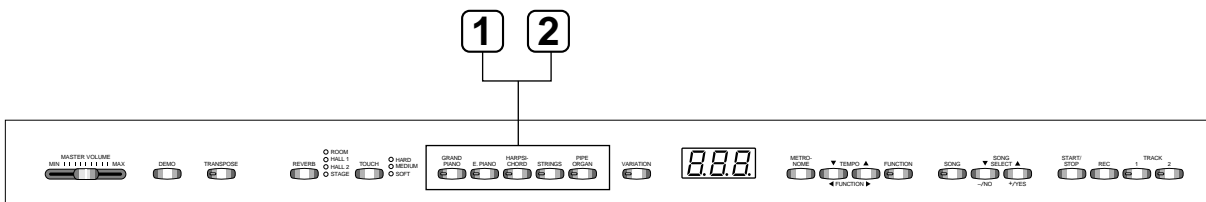
-12 : -12半音(-1オクターブ)  
0 : 標準音程  
12 : 12半音(+1オクターブ)

## トランスポーズをかけた場合の発音域について...

トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

# 「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



## 操作

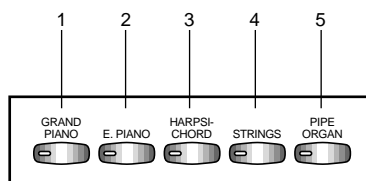
### 1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位



デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF3 (P35)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

ストリングス  
【STRINGS】のバリエーション  
【VARIATION】は音の立ち上がりの遅いストリングス音色です。これをデュアルで片方の音色に使うと、独特の効果が出ます。

### 2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

## デュアルのときの【VARIATION】...

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

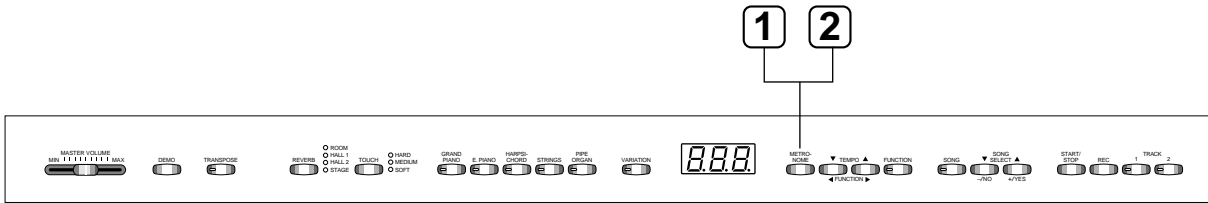
## デュアルのときの【REVERB】...

第1音色のリバースの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。)深さの調節(【REVERB】を押したまま【- / NO】【+ / YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。



# 【METRONOME】を使う

YDP-121は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。



## 操作

### 1 メトロノームを鳴らす

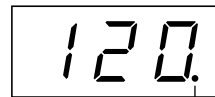
メトロノーム  
【METRONOME】を押します。  
⇒ メトロノームが鳴り出します。

#### テンポの調節

テンポ  
【】TEMPO【】を押すとテンポの値(32 ~ 280(1分間の拍数、基本設定=120))が変わります。

#### 拍子の設定

メトロノーム  
【METRONOME】を押している間はディスプレイに拍子が表示されます。  
メトロノーム  
【METRONOME】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、拍子(0、2、3、4、6、基本設定=0(無拍子))が変わります。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。



拍子

メトロノームの音量は...  
ファンクション(P36)で設定できます。

### 2 メトロノームを止める

メトロノーム  
【METRONOME】を押します。  
⇒ メトロノームが止まります。

# 演奏の録音(記録)

YDP-121の録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

YDP-121の録音では、

- ・ 2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。
- ・ 録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- ・ 録音後、再生させながら演奏することができます。

「録音」と「記録」...

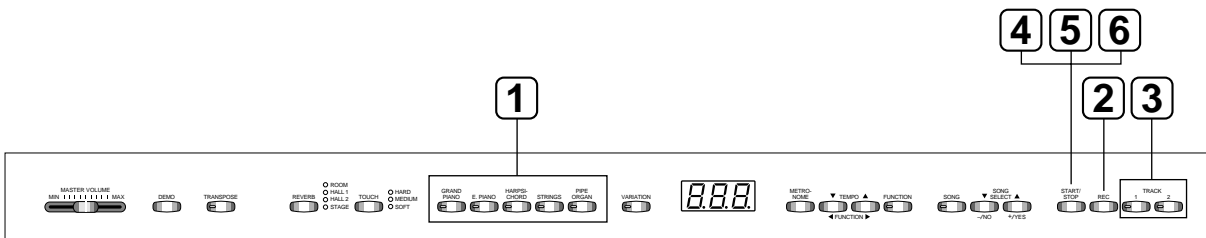
カセットテープに録音するのとYDP-121のメモリーに録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、YDP-121のメモリーでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いたか、音色は何か?テンポはいくつか?」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴りません。

YDP-121のメモリーでは、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

メモリーとは...

録音データやいろいろな設定が記録されるYDP-121本体内部の記録装置のことです。

## 録音の手順(1つのトラックへの録音)



### 操作

**ノート** 録音済みのトラックに再録音すると...

再録音するトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

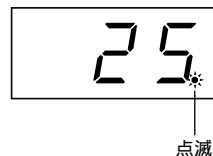
#### 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)を選んでください。

#### 2 録音モードに入る

【REC】を押します。

⇒ トラックボタン【1】または【2】のランプが赤く点灯します。ディスプレイにYDP-121の記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「キロバイト」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



録音を中止する場合は、もう一度【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...  
録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

YDP-121に録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、25KBおよび5,000音符分となります。

メトロノームを使う...

【METRONOME】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

### 3 録音トラックを選ぶ

2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

【1】または【2】で録音するトラックを選びます。

□> ランプが赤く点灯します。

### 4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>を押すと録音がスタートします。

□> ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



### 5 録音をストップする

【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>または【REC】<sup>レコード</sup>を押します。

□> 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

### 6 録音した演奏を聞いてみる

【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>を押すと、今録音した演奏が再生されます。もう一度【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>を押すと、再生が止まります。

左のペダルを使ってスタートする...

ファンクション(P36)で左のペダルをパネルの【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

録音中にメモリーの記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅します。そして記憶残容量がなくなると画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

トラックのデータの削除...

【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>で録音をスタートし、何もせず【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

## 録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す  
先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る  
再び【REC】<sup>レコード</sup>を押します。  
□> 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記「4」以降の手順に従って録音します。

# ■ 続いて2つめのトラックへ録音する場合

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

- 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ  
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。
- 2 再び録音モードに入る  
再び【REC】を押します。  
⇒ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。
- 3 録音トラックを選ぶ  
今録音したトラックと違う方のトラックを選びます。  
⇒ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)  
今録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記「4」以降の手順(P27)に従って録音します。

今録音したトラックのデータの再生をOFFにして録音するには...  
再び録音モードに入る前(手順2の前)に、今録音したトラックのボタンを押します。  
緑のランプが消灯します。  
今録音したトラックとは別の曲を録音したい場合などに便利です。

# ■ 録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。  
下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

## トラックごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ(弾いた音) 1
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFF オン/オフ
- ・ ソステヌートペダルのON/OFF オン/オフ 1
- ・ ソフトペダルのON/OFF オン/オフ
- ・ 【バリエーション VARIATION】のON/OFF オン/オフ
- ・ 【リバーブ REVERB】の深さ
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス 2
- ・ デュアルデチューン 2
- ・ デュアルオクターブシフト 2

## 2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ 【リバーブ REVERB】の種類(オフ OFFも含む)

- 1 初期値としては記録されません。
- 2 録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

初期値とは...  
曲の先頭に記録されるデータです。

# 初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。

## トラックごとに録音されるデータ

- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFFオン/オフ
- ・ ソフトペダルのON/OFFオン/オフ
- ・ 【VARIATION】のON/OFFバリエーション オン/オフ
- ・ 【REVERB】の深さリバーブ
- ・ デュアルの音色

## 2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子リバーブ
- ・ 【REVERB】の種類オフ(OFFも含む)

### 1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。

□ ランプが赤く点灯します。(2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んででも変更されます。)

### 2 パネルを操作して初期値を変更します。

ここで鍵盤や【START/STOP】スタート/ストップを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

### 3 【REC】レコードを押して録音モードを抜けます。

ここで【START/STOP】スタート/ストップを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば録音した【E. PIANO】エレクトリックピアノの音色を【GRAND PIANO】グランドピアノに変更する場合...

操作1のあと、操作2で【GRAND PIANO】グランドピアノを押し、操作3の【REC】レコードを押して完了です。

初期値変更の中止...

操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます。(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

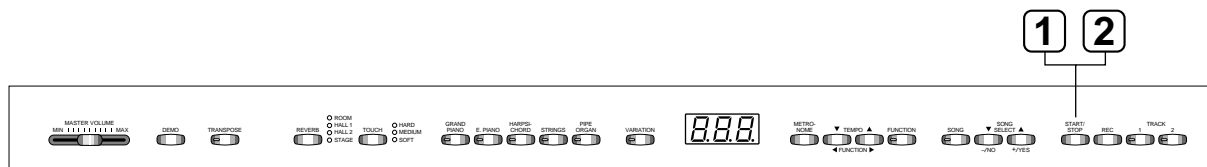
# 録音上の注意

- ・ 録音した曲は、電源OFF後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONオンにしてください。
- ・ 録音済みデータを間違えて消さないようにするために、以下の確認をすると安心です。録音時、レコードモードに入る前に、あらかじめトラックボタンを押してランプの色を確認します。すでに録音データが入っている場合は、ランプが緑に点灯します。録音済みのトラックに再録音すると、古いデータを消して新しく録音しますので、ご注意ください。

# 録音した曲の再生

録音機能(P26～29)を使って録音した曲を再生します。

## 再生の基本手順



### 操作

#### 1 再生スタート

スタート/ストップ  
【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色に、手弾き音色は選ばれているパネル音色になります。

#### 音量の調節

マスター ボリューム  
【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

#### テンポの調節

再生スタート前または再生中に、【<sup>テンポ</sup>TEMPO】を押してテンポを変更できます。  
【**X**】を同時に押すと録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

#### 2 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、  
スタート/ストップ  
【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...再生できません。

録音データがないときは  
スタート/ストップ  
【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう1つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生とついでに外口ノームを使うこともできます。この場合、再生ストップすると、外口ノームも同時に止まります。

再生中の【REVERB】...  
リバーブ  
状況に応じて1つの【REVERB】の種類が優先されます。

## 再生に関する便利な機能

### トラックの再生ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン(【1】【2】の片方または両方)のランプが緑に点灯します。

ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

トラックの再生ON/OFFの切り替えは...

再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生OFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

再生をOFFにしたパートの音量は...

録音した曲の再生の場合は、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

### 弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのトラックのボタン(【1】または【2】)を押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

□> ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。  
再生しながら自分も弾くときに便利です。

### 左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション(P36)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生パートをスタートさせたいときに便利です。

再生OFFのトラックのボタンを押したまま【START/STOP】を押すと...

そのトラックの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

# ファンクション

YDP-121をお使いいただく上での各種の設定を、基本設定(工場出荷時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかに、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

まず、ファンクション一覧表を見てください。

ファンクションには大項目が7個あります(F1~F7)

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

## ファンクション一覧表

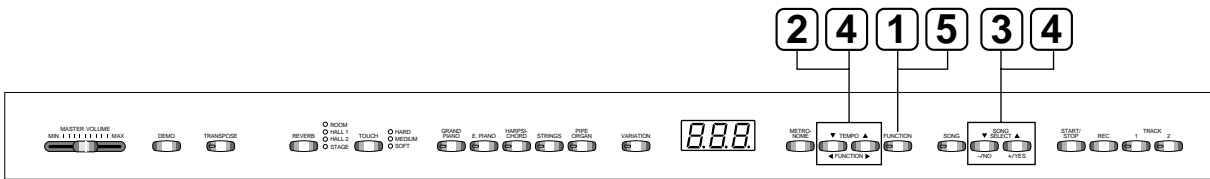
大項目	小項目	No.	ページ
音程の微調整	-	F1	34
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	34
	基音の設定	F2.2	35
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	35
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	35
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	35
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	35
	基本設定に戻す操作	F3.5	35
ペダルの諸設定	左ペダル機能の設定	F4	36
メトロノーム音量の設定	-	F5	36
ピアノ50曲のパート再生 <sup>オフ</sup> 時の音量設定	-	F6	36
バックアップ <sup>オン/オフ</sup> ON/OFFの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F7.1	36
	音程、音律関連項目のバックアップ設定	F7.2	37
	ペダル関連項目のバックアップ設定	F7.3	37



# ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



## 操作

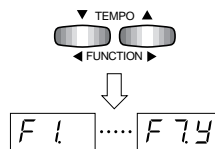
### 1 ファンクションモードに入る

【**FUNCTION**】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F \* \*** になります。

### 2 大項目を選ぶ

【**◀**】**FUNCTION**【**▶**】ボタン下の印刷)でファンクションの大項目(F1~F7)を選びます。



### 3 【-/NO】【+/YES】ボタン下の印刷)で...

小項目がない場合：直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合：【+/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

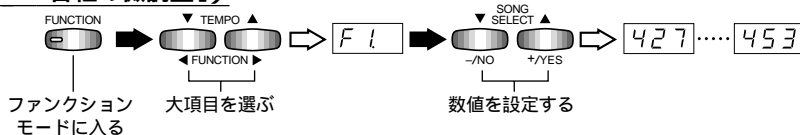
### 4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

【**◀**】**FUNCTION**【**▶**】  
大項目または小項目の選択に使います。

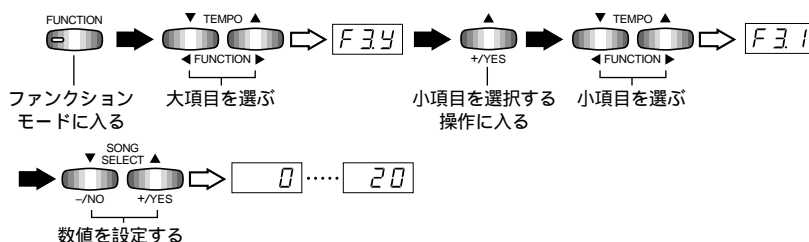
【-/NO】【+/YES】  
大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。  
【-/NO】【+/YES】を同時に押しと基本設定(工場出荷時の設定)に戻る場合があります。

**ノート** 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+/YES】を押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

#### 操作例1(F1「音程の微調整」)



#### 操作例2(F3.1「デュアルの音色の音量バランスの設定」)



### 5 操作が完了したら...

【**FUNCTION**】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンゴ表示に戻ります。

デモ曲/ピアノ曲モードのときと、曲の再生中、録音中は... ファンクションモードに入ることはできません。

この設定は、デュアル(P24)が選ばれていないと、「F3.-」表示になります。

# 各ファンクション項目の説明

## F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときなど、ほかの楽器と音程を正確に合わせたいときなどに使用します。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

② **【- / NO】** <sup>ノ</sup> **【+ / YES】** で、A3の鍵盤の音程を<sup>ヘルツ</sup>Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
<b>440.</b>	440.0
<b>440.</b>	440.2
<b>440.</b>	440.4
<b>440.</b>	440.6
<b>440.</b>	440.8

設定範囲: 427.0 ~ 453.0(Hz)

基本設定: 440.0(Hz)

・ <sup>ヘルツ</sup>Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位が<sup>ヘルツ</sup>Hzです。)

**ノ** **ート** 鍵盤を使った設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

・ 鍵盤と鍵盤名の対応については、P12「各部の名前」をご参照ください。

**ノ** **ート** 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【- / NO】**または<sup>ノ</sup>**【+ / YES】**を押す。

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【- / NO】** <sup>ノ</sup> **【+ / YES】**の2つを同時に押す。

(上記操作中、ディスプレイが<sup>ヘルツ</sup>Hz表示(**427** ... **453**)に切り替わります。操作後元のディスプレイに戻ります。)

## F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律 (Equal <sup>イコールテンペラメント</sup>Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure <sup>ピュアテンペラメント</sup>Temperament) <sup>メジャー</sup>Major

純正律(短調) (Pure <sup>ピュアテンペラメント</sup>Temperament) <sup>マイナー</sup>minor

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean <sup>ピタゴリアンテンペラメント</sup>Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone <sup>ミントーンテンペラメント</sup>Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister <sup>ヴェルクマイスター</sup>)

キルンベルガー音律 (Kirnberger <sup>キルンベルガー</sup>)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード (= チェンバロ) などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F2.4** を選びます。

2 **【 + /YES <sup>イエス</sup>】** を押して確定し、**【 ◀FUNCTION▶ <sup>ファンクション</sup>】** で以下の小項目を選び、**【 - /NO <sup>ノー</sup>】** **【 + /YES <sup>イエス</sup>】** で設定します。

### 小項目

#### **F2.1** 音律(調律法)の種類の設定

設定範囲: 1..... 平均律  
2..... 純正律(長調)  
3..... 純正律(短調)  
4..... ピタゴラス音律  
5..... 中全音律  
6..... ヴェルクマイスター音律  
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

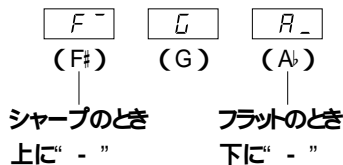
#### **F2.2** 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B

基本設定: C

#### ・ 基音表示の例



## F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。  
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F3.4** を選びます。

2 **【 + /YES <sup>イエス</sup>】** を押して確定し、**【 ◀FUNCTION▶ <sup>ファンクション</sup>】** で以下の小項目を選び、**【 - /NO <sup>ノー</sup>】** **【 + /YES <sup>イエス</sup>】** で設定します。

**ノート** デュアルモードでないときには...

①での表示が **F3-** になり、**【 + /YES <sup>イエス</sup>】** を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることできます。

### 小項目

#### **F3.1** 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

#### **F3.2** 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~10(+方向で第1音色の音程が高くなる、-方向で第2音色の音程が高くなる。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

#### **F3.3** 第1音色のオクターブシフトの設定

#### **F3.4** 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, 1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

・「第1音色」「第2音色」については、P24をご覧ください。

#### **F3.5** 基本設定に戻す操作

**【 + /YES <sup>イエス</sup>】** を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

**ノート** ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま**【FUNCTION <sup>ファンクション</sup>】** を押すと直接ファンクションモードの **F3\*** に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(**【FUNCTION <sup>ファンクション</sup>】** を押す ⇨ ランプ消灯)が必要です。

## F4. 左ペダル機能の設定

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、スタート/ストップ機能(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えることができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F4** を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

選択範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)

基本設定: 1(ソフトペダル)

## F5. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F5** を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

設定範囲: 1~20

基本設定: 10

### ノート ショートカット操作...

【METRONOME】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの **F5** に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯)が必要です。

## F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

YDP-121に入っているピアノ50曲の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F6** を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

選択範囲: 0~20

基本設定: 5

## F7. バックアップON/OFFの設定

・バックアップとは...

メモリー(本体内部の記憶装置)に記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときに前回の設定が有効になります。

バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ります。(基本設定一覧表がP42に掲載されています。)

・バックアップの設定をONにしても、電源を切った約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F7Y** を選びます。

2 【+ /YES】を押して確定し、【◀】【FUNCTION】【▶】で以下の小項目を選び、【- /NO】【+ /YES】で設定します。

### 小項目

**F71** 音色関連項目のバックアップ設定

**F72** 音程、音律関連項目のバックアップ設定

**F73** ペダル関連項目のバックアップ設定

設定範囲: On/OFF

基本設定: OFF(すべてのグループ)

ただし「メモリーに録音された演奏データ」と、ここでの「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

### ・各小項目の内容

**F71** 音色関連項目のバックアップ設定

- ・音色選択
- ・デュアルモードのON/OFFと音色
- ・デュアルの諸設定(**F3\***の設定内容)〔音色の組み合わせごと〕
- ・リバーブの種類と深さ(音色ごと)
- ・バリエーションのON/OFF(音色ごと)
- ・タッチの設定(FIXED時の音量も含む)
- ・メトロノームの拍子と音量(音量は、**F5**の設定内容)
- ・ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(**F6**の設定内容)

#### **F72** 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・ トランスポーズの設定
- ・ 音程の微調整( **F1** の設定 )
- ・ 音律( 調律法 )の種類と基音の設定( **F2\*** の設定内容 )

#### **F73** ペダル関連項目のバックアップ設定

- ・ 左ペダル機能の設定( **F4** の設定内容 )

基本設定( =工場出荷時の設定 )に戻すには...

いったん電源を<sup>オフ</sup>OFFにし、右端の鍵盤( **C7** )を押したまま電源を<sup>オン</sup>ONにします。  
この操作でいつでも基本設定( =工場出荷時の設定 )に戻すことができます。(ここでの「バックアップ<sup>オン/オフ</sup>ON/OFFの設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体のメモリーに録音された演奏データも消えます。〔基本設定一覧表がP42に掲載されています。〕

# 他の機器と接続する端子

## 【PHONES】端子

ヘッドフォンを【PHONES】端子(標準ステレオフォン端子)に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとYDP-121のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

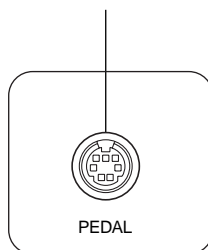


別売ヘッドフォン...  
YAMAHAヘッドフォン HPE-150  
(税別価格: 4,000円)

## ペダル PEDAL 端子

ペダルコードを接続します。

(P44の「YDP-121の組み立て方」を参照してください。)



# 付 録

YDP-121をMDP10(「伴奏くん」)と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

---

MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ .....	P40
音色のご紹介 .....	P41
基本設定一覧表 .....	P42
別売品のご紹介 .....	P43
仕様 .....	P43
YDP-121の組み立て方 .....	P44
故障かな?と思ったら .....	P46
索引 .....	P47
保証とアフターサービス .....	巻末

# MDP10(「伴奏くん」)を使ってディスクソフトを楽しむ

- ・ MDP10とは---



スピーカー一体型のミュージックディスクソフト再生専用モジュールです。下記にご紹介するミュージックディスクソフトをはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。YDP-121と組み合わせて使うと、ディスクソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習ができます。

## MDP10で再生できる主なヤマハ別売ディスクソフトのご紹介

- ・ 「ピアノソフト」

ピアノ演奏データのソフトです。

内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。

一部MDP10ではご利用いただけないタイトルもあります。

- ・ 「ピアノ アンサンブル」

メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞だけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

- ・ 「ピアノ アソシエ」

「ピアノアソシエ」は、テキストとオーケストラ伴奏データなどが入った専用ディスクソフトを活用するピアノレッスンメソッドです。MDP10でこの専用ディスクソフトを再生して、ピアノレッスンに活用することができます。

- ・ 「XGソングデータライブラリー」

ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データのディスクソフトです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

### ミューマについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているMuma専用コンピュータで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

上記およびその他のディスクソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

## YDP-121とMDP10を組み合わせてディスクソフトを楽しむ方法

YDP-121とMDP10を組み合わせて使うと、下記のようなことができます。特別な接続は必要ありません。

**ソフトを再生しながらYDP-121でアンサンブル演奏**  
MDP10で曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをYDP-121でご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

## ソフトを使ってYDP-121の練習

- ・ 右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFFにしてYDP-121で片手練習することができます。
- ・ 曲中のフレーズを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。



# 音色のご紹介

	音色のご紹介
GRAND PIANO(グランドピアノ)	豊かに広がるグランドピアノの音。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
E.PIANO(エレクトリックピアノ)	シンセサイザーDXのエレピの音。弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。
HARPSICHORD(ハープシコード)	バロック音楽などでよく使われる楽器「ハープシコード」の音。「チェンパロ」ともいいます。
STRINGS(ストリングス)	大編成弦楽アンサンブルの音。【 <small>バリエーション</small> VARIATION】を押すと、ピアノとのデュアルに最適な立ち上がりの遅い音になります。
PIPE ORGAN(パイプオルガン)	重厚なフルパイプオルガンの音。大聖堂を思わせるきらびやかな音です。

# 基本設定一覧表

基本設定(=工場出荷時の設定)を一覧にしました。

	基本設定	バックアップグループ
音色選択	グランドピアノ GRAND PIANO	F7.1
デュアル機能	オフ OFF	
リバーブの種類	音色ごと	
リバーブの深さ	音色ごと	
タッチの種類	ミディアム MEDIUM	
タッチがFIXED <small>フィックス</small> のときの音量	64	
メロノーム	オフ OFF	-
メロノームの拍子	α(無拍子)	F7.1
テンポ	120	-
トランスポーズ	0	F7.2

「-」の項目はバックアップはありません。

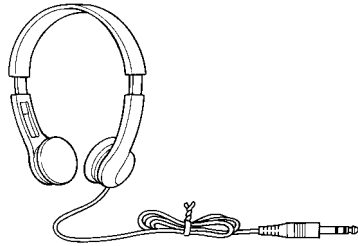
## ファンクションの基本設定

		基本設定	バックアップグループ
F1.	音程	A3=440Hz	F7.2
F2.1	音律	1(平均律)	
F2.2	基音	C	
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F7.1
F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと	
F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F4.	左ペダル機能	1(ソフトペダル)	F7.3
F5.	メロノーム音量	10	F7.1
F6.	ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量	5	
F7.	バックアップの設定	すべてOFF	常にバックアップ

# 別売品のご紹介

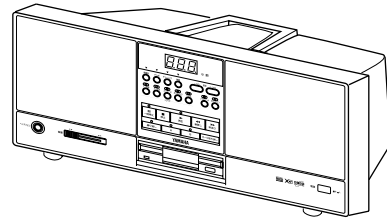
## ヘッドフォン HPE-150

¥4,000(税別価格)



## ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

¥58,000(税別価格)



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノソフト」(P40)や「ピアノアンサンブル」(P40)をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。YDP-121と組み合わせて、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。(P40)

# 仕様

	YDP-121
鍵盤	HE鍵盤 88鍵(A-1~C7)
音源	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	最大32音
音色数	5 + 各音色バリエーション
効果	リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ)
コントロール	デュアル、メロノーム、トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ、シンクロスタート
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲50曲
付属端子	ヘッドフォン端子×2、ペダル端子
メインアンプ	20W×2
スピーカー	16cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ
消費電力	35W
寸法 [間口×奥行×高さ] ( )内は譜面立てを立てた場合	1384mm×497mm×829mm (1384mm×497mm×1001mm)
質量	46kg
装備	キーカバー、譜面立て
付属品	専用イス、ヘッドフォン、保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選

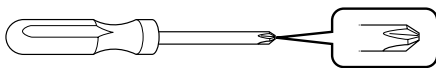
・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

# YDP-121 の組み立て方



- ・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ・ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行なって確実に固定してください。
- ・解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

## 1 プラス (+) のドライバーを用意します。



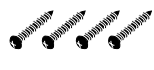
## 2 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめます。

### ネジセット V600260

長いネジ (頭丸) × 4  
(6 × 35mm)



先のとがったネジ (頭丸) × 4  
(4 × 16mm)



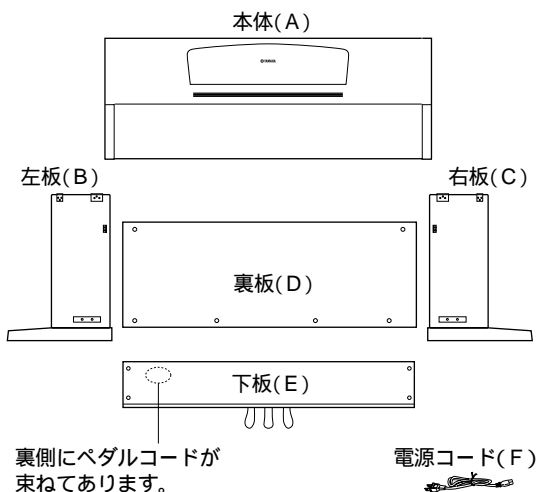
中くらいのネジ (頭平) × 4  
(6 × 16mm)



コードクランプ × 2個

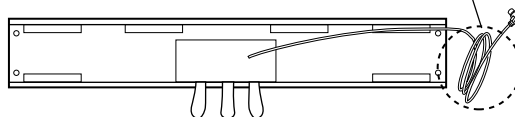


短いネジ (頭丸) × 2  
(4 × 10mm)

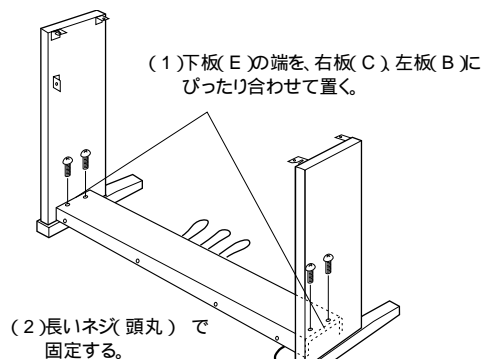


## 3 下板(E)のペダルコードをほどいて、固定しなおします。

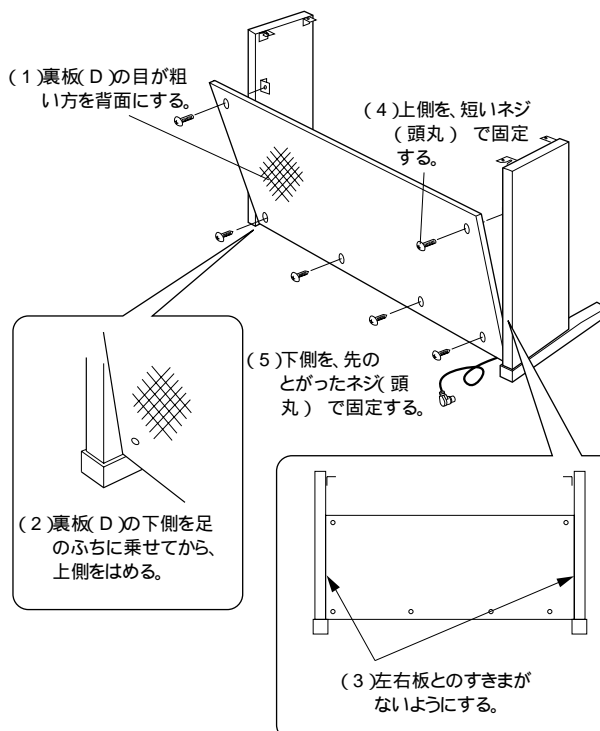
破線部のビニールひもをほどく。  
ほどいたビニールひもは [8] で使用します。



## 4 下板(E)を固定します。



## 5 裏板(D)を固定します。



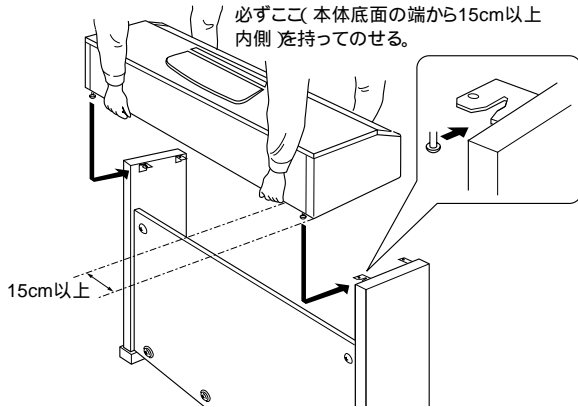
## 6 本体(A)を乗せます。



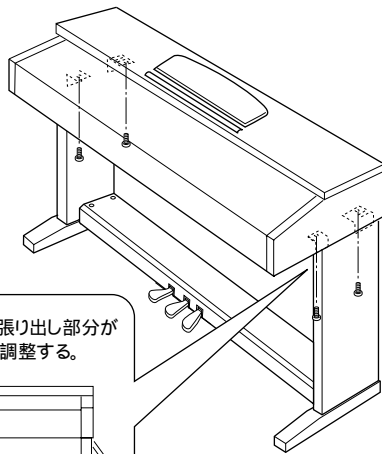
指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。



指定した位置以外を持たないでください。



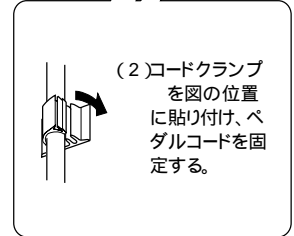
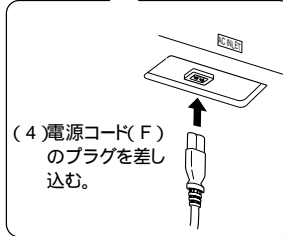
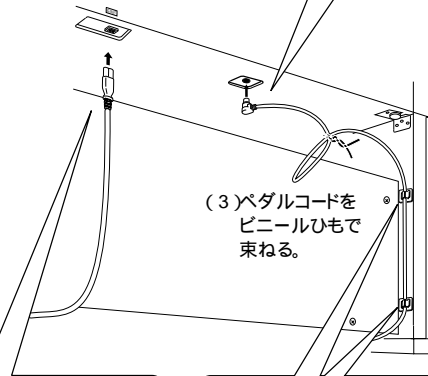
## 7 本体(A)を固定します。



(1)前面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。

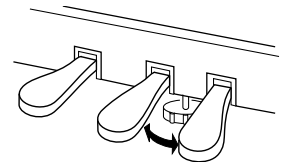
(2)中くらいのネジ(頭平)で固定する。

## 8 コードを接続します。



## 9 アジャスターを回します。

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



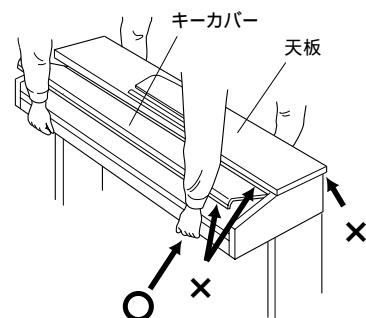
組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか?  
組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がYDP-121にあたりませんか?  
YDP-121を移動してください。
- YDP-121をゆすると、ガタガタしませんか?  
ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか?  
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?  
確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



# 故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
YDP-121の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P9)
【POWER】 <sup>パワー</sup> を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
YDP-121から雑音が出る。	YDP-121の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)。	YDP-121の近くでは携帯電話の電源を切ってください。YDP-121の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME】 <sup>マスター ボリューム</sup> が下がっています。	【MASTER VOLUME】 <sup>マスター ボリューム</sup> を上げてください。(P9)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P9)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが【PEDAL】 <sup>ペダル</sup> 端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを【PEDAL】 <sup>ペダル</sup> 端子に確実に差し込んでください。(P44の「YDP-121の組み立て方」を参照してください。)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

**ノート** ディスプレイに **5cn** が表示された場合は、YDP-121の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

# 索引

- ・ この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P7「目次」をご覧ください。
- ・ ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P12、P13「各部の名前」をご利用ください。
- ・ ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P32「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- ・ 「\*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

## 記号・ABC順

↳ の意味	6
➡ の意味	6
ALL(ピアノ曲モード)	18
HPE-150	43
MDP10	40
Muma	40
mα(ピアノ曲モード)	18
XGソングデータライブラリー	40

## あいうえお順

音律	34
音量調節	9
片手練習(ピアノ50曲)	19
キーカバー	8
基本設定	15、37、42
工場出荷時の設定	15、37、42
再生(曲の)	30~31
再生OFFしたパートの音量調節(ピアノ50曲)	36
小項目(ファンクション)	32
ショートカット(F3.デュアルの諸設定)	35
ショートカット(F5.メトロノーム音量の設定)	36
初期値(録音データ)とは...	28*
初期値(録音データ)の変更	29
シンクロスタート(曲の再生)	31
シンクロスタート(ピアノ50曲)	19
ソステヌートペダル	21
ソフトペダル	21
ソングとは...	16*

大項目(ファンクション)	32
端子	38
ダンパーペダル	21
ディスプレイ	14
デモ曲	16
デモ曲/ピアノ曲モード	16~20
デュアルモード	24
電源	9
電源ランプ	9
トラックの再生ON/OFF(曲の再生)	30
トラックのデータの削除	27*
バックアップとは...	15*
ピアノ50曲	18~20
ピアノ50曲の練習方法	19~20
ピアノアソシエ	40
ピアノアンサンブル	40
ピアノソフト	40
左のペダル	20
左ペダルスタート/ストップ	31
ファンクションとは...	15
ファンクションモード	32~37
深さリバーブ)	22
付属品	4
部分練習(ピアノ50曲)	20
譜面立て	8
ヘッドフォン	38
保証書	4
まん中のペダル	21
右のペダル	21
メモリーとは...	15*
モードとは...	16*
モードの相関	16*、26*、30*、33*
録音モード	26~29

# 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

## 保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヵ月です。

## 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

## 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

## 修理のご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

## 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。



この取扱説明書は  
エコマーク認定の  
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は  
エコバルブ( ECF:無塩素系漂白バルブ )  
を使用しています。



この取扱説明書は  
大豆油インクで印刷しています。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL (044) 434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2134
[本社]CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-1158

## ヤマハ電子ピアノに関するお問い合わせ窓口

### クラビノーバ ポータブル楽器インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

### EM営業統括部

北海道営業所	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6113
仙台営業所	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL (022) 222-6147
営業推進課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-5476
名古屋営業所	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL (052) 201-5199
大阪営業所	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋プラザビル東館	TEL (06) 6252-5231
九州営業所	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2130

### PA・DMI事業部

EKB国内営業部 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1  
TEL (053) 460-3275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

## インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

- ・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>
- ・ヤマハマニュアルライブラリー <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- ・「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」  
ミュージックイークラブ・ドットコム <http://www.music-eclub.com>

## ヤマハ株式会社

M.D.G., PA・DMI Division, Yamaha Corporation

©2001 Yamaha Corporation